



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2008年2月現在、川崎3、横浜4、県域11 計18名で活動中!!

～ '07 神通研集会報告④～

川崎市で昨年行った聴協も参加しての防災訓練の様子を記録したDVDを見ながら、一般社会が理解できていないこと、今後取り組んでいかなくてはならないことを確認しました。 ～その2～

<理解できていないところ>

- ・聴こえない人とのコミュニケーションの方法がわからない。

結果、想定では近くにいない予定の通訳者をすぐに呼びに行ってしまう。

- ・難聴者の方の場合は話すことができるのでもっと深刻で、大きな声を出せば通じると捉えられてしまう。大きな声で何度も何度も同じことを繰り返した後、やっと書いてもらえる状況。ただ、書いて伝えるということに慣れていないため、面倒になるとまた大きな声で話し出してしまふ。

また、「聴こえない」という障害をみな同じとひとくくりに考え、手話のわからない難聴者の方のところへ手話通訳者を連れて行ってしまふ。

～ 定例会 ～

1月27日(日)、定例会を開催しました。

「災害」に関しては、災害ボランティア組織が少しずつ増え、マスコミでも取りあげられる頻度が多くなってきました。聴協とサークルがいっしょに参加し、地域との関わりを深めるきっかけになると良いと思います。

「障害者自立支援法」「特別支援教育」「国連障害者権利条約」等々、ろう者を取り巻く社会はめまぐるしく変化しています。また、若い世代のろう者には普通学校卒業業者が増え、関わっているろう者によってサークルも変化し始めています。個の尊重と力の結集。この相反する二つをどう繋げていくか。やはり良い人間関係作りでしょうか。

【次回定例会】2月23日(土) 10:10~12:00

県民活動サポートセンター710

～サークル研究班メンバーのささやき～

去年の私のトップニュース。
神通研集会初司会。参加者の方々に助けられ会は充実。ほっ!

サークル班員はいつも前向き。自分を変えた
いあなた!サークル班に参加しましょう。元気
と勇気がもらえますよ。私のように!

H・F